

平成十七年十一月二十日
〒九三二〇八〇四

高岡市問屋町四十
有限会社 沖商店
2015.11.20

TEL 〇七六〇一五二五五
FAX 〇七六〇一五二五〇
E-mail info@oki-shouten.com



いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』。そんなことを皆様と一緒に考えたい。そして皆様の意見を頂きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいます様お願い申し上げます。

一 民主党に期待するもの

先号で「小泉首相と民主党に期待するもの」と題しながら小泉首相への期待に終始し、その結果紙面がなくなり「民主党への期待」を記せませんでした。それで、前号の続きとして「民主党に期待するもの」と題して私見を述べます。

先の衆議院議員選挙において郵政民営化法案を掲げた『小泉自民党』が圧勝し、「自民党をぶっ潰す」と豪語した通り、旧体制の『自民党』は潰され、新しい『自民党』が誕生したわけです。

この事に対し「野党にはつぶせそうにもなかった自民党を自らの手でつぶすと公言し、人気を獲得してきたあなたは確かに党内に内紛をもたらし、抵抗勢力を切り捨てた。しかし、もともと自民党は派閥の寄り合い所帯だったのだから、一部党員を切り捨てても、党を壊したことはないでしょう」と言う一文学者(自称)もいらつしやいます。

しかし、今日の『自民党』は自民党という通称は変わりませんが、先の衆議院議員選挙前の旧『自民党』とは、中身・内容において大いに変っていると思います。即ち、旧『自民党』内のいわゆる『族議員』と呼ばれる人達が羽振りを利かせていた時代は終わりました。私はこれを『小泉自民党』と称します。

『小泉自民党』は「承知の通り、郵政民営化法案を真っ先に掲げ、旧『自民党』では成し得なかった行政改革をどんどん進めようとしています。

これは真しく「国民の代表である代議士が、国民のために雇っている公務員を意のままに使う」という本来の行政のありかた・姿に戻ろうという動きであり正しい事だと思えます。私は今現在の小泉首相の行政改革に大賛成なのです。

しかし、古今東西の歴史を紐解けば、栄華の後は必ず盛衰が待っています。素晴らしい行政改革をしても、時間が経てば弊害が出てきます。

小泉首相の力リスマ的な要素で出来た『小泉自民党』と第二次世界大戦時のドイツの指導者、アドルフ・ヒットラーの力リスマ的な要素で出来た『ナチス党』とを同一視するわけではありませんが、ドイツを過った方向に導き、ホロコーストという大殺戮をした指導者、ヒットラーも最初は当時のドイツ民衆の意見・考え方に添った素晴らしい考え方の人物だったと聞いています。

当時のドイツは第一次世界大戦に於ける敗戦の結果、莫大な損害賠償を抱えていました。政治的にも確たる人物が居らず、政治家も役人も自分の事しか考えない、いわゆるドイツ政治上、経済的にも人材的にも貧困の時代であったと思われまます。それは誇り高いドイツ人にとって耐え難い苦痛の時代だったと思われまます。そこへ登場したのが、あの有名な(悪名高い)アドルフ・ヒットラーだったのです。彼は、腐りきった役人と政治家の有様を暴露し、批判し、民衆の喝采を受け、人気を増して行きました。誇り高いドイツ人にとってそれは、誠に痛快であり、こぞって支持したことでしょう。こうして、ヒットラーはたちまちに勢力を揚げ、気がついたときは、とつもない悪魔に成長していったのです。

ヒットラーと小泉首相を一緒にするわけではありませんが、腐りきった役人と政治家の支配する日本をそれを一掃してくれる独裁者の出現を期待する今日の危うい日本の社会的風潮が、当時、ヒットラーを産んだドイツとよく似た状態であることが気になって仕方がありません。

そういえば今回粛清された、旧『自民党』の『族議員』も、最初は素晴らしい政治理念を持ちその実現に純粋な情熱を傾け、己を空しくして民衆・国民のためを思っていたはずですが、それが時を経ることに濁り汚れたのです。

仏教のお経の中にも『五濁悪世』という語句があります。『五濁』とは、『劫濁』『見濁』『煩惱濁』『衆生濁』『命濁』の五つの濁りです。『劫濁』とは「ど

んな立派なもの(物・者・心・考え・手段方法)でも時が経てば必ず濁って来る」ということです。(あの四濁については今後必要に応じて解説します)

今現在私は、小泉首相の破壊的な行政改革を大いに評価していますし期待しています。しかし何時かは濁りが現れ弊害が出て来るでしょう。その時に備えて『小泉自民党』に成り代わり政権交代できるだけの力のある政党があれば良いと思います。

『民主党』には、政権欲しさに何でも自民党の反対をしないで、己のためではなく国民のために、己の確固たる政治理念を掲げ、それを粛々と進めて、来るべき時に備えて頼り甲斐のある、そんな政党に成って欲しい。これが私の民主党に期待するものであります。

二 今年私の節目の年

あと十日あまりで今年(平成十七年)も暮れます。毎年同じ年の繰り返しだと思っていました。例年とは違い、今年私の節目を感じました。

人には夫々、人生の節目というものがございます。小学校入学・高等中学校入学・大学入学・就職・結婚・住居取得・定年退職・離婚など、平年ではない事柄はひとつの節目と言えましようが、そのような社会的節目ではなく、その人の人生に於いて、「あの時が自分なりの」という節目です。今年はその意味で私なりの節目を感じた年でした。

昔から厄年と言いまして、男なら二十五歳・四十二歳・六十歳と聞いてまいりました。しかし私にはその年は節目を感じられませんでした。

私が最初に節目を感じたのは、十二年前・五十二歳の時でした。気力は益々盛んだと自分では思っていたのですが、飲み屋をばし酒して、午前様帰宅が十二時を過ぎることになると、疲れがその日に残るのです。それまでは、二時や三時に帰っても、ひと眠りして朝は通常通り出勤したものです。「すこしは歳をとったかな」と自覚したのが五十二歳の時でした。

その後は変わりありませんでしたが、今年は何となく何かに何か節目を感じまます。それは、肉体的なものではなく精神的なものです。老化というより脱皮という言葉が感じまます。

一皮剥けて成長するのは良いのですが、悪い方に成長するのではなく、世のため他人のため、そしてなにより自分のために、良い方向に成長させて頂きたいと願われてなりません。人一倍に欲深い私・欲

心への誘惑に弱い私ですから。年の瀬を迎え今年一年を振り返って、来年一年が吾が魂を更に磨いてくれる年になりますように、そしてその試練を信心を持つことにより湧いて来る強く強い心を以って楽しく乗り切られますように祈念されてなりません。

三 平成十八年への抱負と願い

宗教団体のひとつに「立正佼成会」というのがありまして、その熱心な信者のひとり私が私に「佼成」という小雑誌を持ってきてくれます。(無料で)

★☆開祖さまのみ教え★☆

仏像の眼は半ば開かれ、半ば閉じられた状態です。これを「半眼」と申します。これは、半分の眼で外の世界を見、半分の眼で自分自身を見つめる大切さを教えているのだといひまます。

外の世界だけに眼を奪われても、反対に自分ごとしか見えなくても、ものごとを正しく見ることはできません。バランスのとれた見方が大切なのです。そして、実際にそう行動してみると、思いがけない喜びが得られるのです。

心の扉を固く閉ざしていると、相手の言葉や気持ちを受けとめることはできません。すると「あの人には何を言ってもだめだ」と、自分を受け入れてくれる人がどんどん減っていつてしまうのです。

反対に、常に穏やかな気持ちで心の扉を開いていると、どんな人の言葉も柔らかに入ってきて、どんな言葉も善意に解釈できます。

こちらがいつも善意で接していれば、いつかは必ず以心伝心で相手も素直に善意を表に出してくれるようになり、そこに「和」が広がっていくわけです。

★☆庭野日敬★☆

いつも、年の暮れと年の初めには、自分がこの世に生まれてきた意義・目的について考え、殊勝な思いになるのですが、肝心なときに実行できず反省の繰り返しであります。前記の「開祖さまのみ教え」を思い起こし来年こそは、私の一番の苦手であり、私がこの世に生まれてきた意義・目的の最も重大な課題と思われる「忍辱」と言うことに焦点を絞って修行したいと思っています。心弱い故に神仏にすがって少しでも、成就に近づきたいと願っています。

有限会社 沖商店

代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail 062525@oki-shouten.com
(にこにこ通信への意見をはじめ個人的な連絡は、個人メールへ)